(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2015-137105
(P2015-137105A)
(43)公開日　平成27年7月30日(2015.7.30)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
B65D 51/28	(2006.01)	B65D	51/28	A	3E084
B65D 51/22	(2006.01)	B65D	51/22		

審査請求 未請求　請求項の数 6　OL　（全 12 頁）

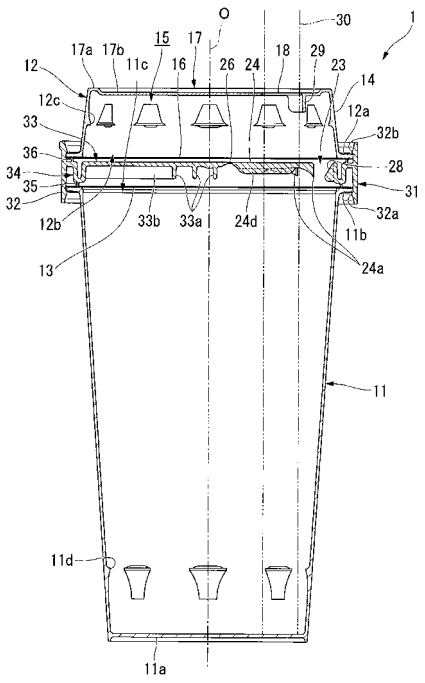
(21)出願番号　特願2014-8014(P2014-8014)
(22)出願日　平成26年1月20日(2014.1.20)

(71)出願人　311002447
キリン株式会社
東京都中野区中野四丁目１０番２号
(71)出願人　000006909
株式会社吉野工業所
東京都江東区大島３丁目２番６号
(74)代理人　100064908
弁理士　志賀　正武
(74)代理人　100094400
弁理士　鈴木　三義
(74)代理人　100106909
弁理士　棚井　澄雄
(74)代理人　100140718
弁理士　仁内　宏紀

最終頁に続く

(54)【発明の名称】蓋付カップ容器

(57)【要約】
【課題】優れた開封操作性を具備させる。
【解決手段】カップ本体と蓋体とを接続する接続部材３１には、第１シール材と第２シール材との間を上下方向に仕切る仕切り板３３が備えられ、仕切り板の外周部には、蓋体の頂壁部に形成された、ストローの挿通孔１８と第２シール材を介して対向する貫通孔２３が形成され、貫通孔内に、第１ヒンジ部２６を介して仕切り板に連結された切刃部２４と、この切刃部をカップ周方向に挟む両側に配置されるとともに、第２ヒンジ部２７を介して仕切り板に連結された誘導部２５と、が配設されている。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
内容物が収容されるとともに、上端開口部が第１シール材によって封止されたカップ本体と、
有頂筒状に形成されるとともに、その内部が添加剤の収容される収容室とされ、かつ下端開口部が第２シール材によって封止され、前記カップ本体の上方に配置された蓋体と、
前記第１シール材と前記第２シール材とを上下方向で対向させた状態で、前記カップ本体と前記蓋体とを接続する接続部材と、を備える蓋付カップ容器であって、
前記接続部材には、前記第１シール材と前記第２シール材との間を上下方向に仕切る仕切り板が備えられ、
前記仕切り板の外周部には、前記蓋体の頂壁部に形成された、ストローの挿通孔と前記第２シール材を介して対向する貫通孔が形成され、
前記貫通孔内に、
第１ヒンジ部を介して前記仕切り板に連結された切刃部と、
この切刃部をカップ周方向に挟む両側に配置されるとともに、第２ヒンジ部を介して前記仕切り板に連結された誘導部と、が配設されていることを特徴とする蓋付カップ容器。
【請求項２】
前記貫通孔の内周縁において、前記切刃部における前記第１ヒンジ部の反対側の端部と対向する部分には、前記切刃部に向けて突出する案内突起が形成されていることを特徴とする請求項１に記載の蓋付カップ容器。
【請求項３】
前記挿通孔は、前記蓋体の頂壁部における外周部に形成され、
前記蓋体の頂壁部における前記挿通孔の開口周縁部のうち、カップ径方向の外側に位置する部分に、前記頂壁部の上面視でカップ径方向の内側に向けて開口する形状を呈する規制壁部が下方に向けて突設されていることを特徴とする請求項１または２に記載の蓋付カップ容器。
【請求項４】
前記切刃部は、下方に向けて尖る切刃を有するとともに、カップ径方向の内側から外側に向かうに従い漸次カップ周方向の幅が狭くなり、かつそのカップ径方向の内側の端部が前記第１ヒンジ部を介して前記仕切り板に連結され、
前記誘導部は、下面が平滑面とされるとともに、カップ径方向の外側から内側に向かうに従い漸次カップ周方向の幅が狭くなり、かつそのカップ径方向の外側の端部が前記第２ヒンジ部を介して前記仕切り板に連結されていることを特徴とする請求項１から３のいずれか１項に記載の蓋付カップ容器。
【請求項５】
前記誘導部は、前記仕切り板の上面視において、前記第２ヒンジ部が連結された１つの底辺部と、残り２つの斜辺部と、により画成された三角形状を呈し、
前記２つの斜辺部のうち、前記切刃部側に位置する内斜辺部の長さが、前記切刃部の反対側に位置する外斜辺部の長さより長くなっていることを特徴とする請求項４に記載の蓋付カップ容器。
【請求項６】
前記蓋体の下端には、カップ径方向の外側に向けて突出し、かつ全周にわたって連続して延びるフランジ部が形成され、
前記接続部材には、前記フランジ部を、このフランジ部の上側から支持する支持突部と、前記フランジ部の下面に液密に当接するシール突部と、がそれぞれ全周にわたって形成され、
前記支持突部、及び前記シール突部にはそれぞれ、互いに異なる周方向位置に、前記仕切り板の上面と前記第２シール材との間と、外部と、を連通する間欠部が形成されていることを特徴とする請求項１から５のいずれか１項に記載の蓋付カップ容器。
【発明の詳細な説明】

【技術分野】
【０００１】
本発明は、蓋付カップ容器に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
従来から、例えば下記特許文献１に示されるような、蓋体に形成された挿通孔にストローを挿し込んで、カップ本体内の内容物をストローを通して吸い上げる蓋付カップ容器が知られている。また、例えば下記特許文献２に示されるような、添加剤が収容された副容器が蓋体に離脱自在に装着された蓋付カップ容器も知られている。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】実公平０６－２８４３３号公報
【特許文献２】実公平０６－３４３１０号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
しかしながら、前記従来の蓋付カップ容器では、カップ本体を開封する操作と、添加剤をカップ本体内に添加する操作と、を各別に行う必要があり、開封時の操作性に改善の余地があった。
【０００５】
本発明は、このような事情を考慮してなされたもので、優れた開封操作性を具備させることができる蓋付カップ容器を提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
上記課題を解決して、このような目的を達成するために、本発明の蓋付カップ容器は、内容物が収容されるとともに、上端開口部が第１シール材によって封止されたカップ本体と、有頂筒状に形成されるとともに、その内部が添加剤の収容される収容室とされ、かつ下端開口部が第２シール材によって封止され、前記カップ本体の上方に配置された蓋体と、前記第１シール材と前記第２シール材とを上下方向で対向させた状態で、前記カップ本体と前記蓋体とを接続する接続部材と、を備える蓋付カップ容器であって、前記接続部材には、前記第１シール材と前記第２シール材との間を上下方向に仕切る仕切り板が備えられ、前記仕切り板の外周部には、前記蓋体の頂壁部に形成された、ストローの挿通孔と前記第２シール材を介して対向する貫通孔が形成され、前記貫通孔内に、第１ヒンジ部を介して前記仕切り板に連結された切刃部と、この切刃部をカップ周方向に挟む両側に配置されるとともに、第２ヒンジ部を介して前記仕切り板に連結された誘導部と、が配設されていることを特徴とする。
【０００７】
この発明によれば、ストローを挿通孔から挿し込むと、ストローの先端部によりまず第２シール材が破断され、次に、ストローの先端部が切刃部を下方に向けて押し込むことで、切刃部が第１ヒンジ部回りに下方に向けて回動し、第１シール材が破断される。これにより、収容室内とカップ本体内とが連通し、収容室内の添加剤がカップ本体内に流入する。
このように、ストローを挿通孔に挿し込む操作だけで、カップ本体の開封、及び添加剤の添加を双方ともに行うことが可能になり、優れた開封操作性を具備させることができる。
さらに、以上の開封の過程において、挿通孔に挿し込まれ第２シール材を破断したストローの先端部が、切刃部からカップ周方向の外側に外れ誘導部に到達しても、誘導部が第２ヒンジ部回りに下方に向けて回動することで、ストローの先端部を切刃部上に導くことが可能になり、切刃部により第１シール材を確実に破断することができる。

【０００８】
ここで、前記貫通孔の内周縁において、前記切刃部における前記第１ヒンジ部の反対側の端部と対向する部分には、前記切刃部に向けて突出する案内突起が形成されてもよい。
【０００９】
この場合、挿通孔に挿し込まれ第２シール材を破断したストローの先端部が、切刃部から第１ヒンジ部の反対側に外れても、案内突起上を摺動させることにより、ストローの先端部を切刃部上に導くことが可能になり、切刃部により第１シール材を確実に破断することができる。
【００１０】
また、前記挿通孔は、前記蓋体の頂壁部における外周部に形成され、前記蓋体の頂壁部における前記挿通孔の開口周縁部のうち、カップ径方向の外側に位置する部分に、前記頂壁部の上面視でカップ径方向の内側に向けて開口する形状を呈する規制壁部が下方に向けて突設されてもよい。
【００１１】
この場合、挿通孔に挿し込まれたストローの先端部が、切刃部に対してカップ径方向の外側に外れようとしても、規制壁部に摺接することにより、ストローの先端部を切刃部上に導くことが可能になり、切刃部により第１シール材を確実に破断することができる。
また、規制壁部が、前記上面視でカップ径方向の内側に向けて開口する形状を呈しているので、収容室内の添加剤がカップ本体内に流入する際に、カップ本体内の気体を、挿通孔を通して外部に流出させやすくなり、添加剤をカップ本体内に円滑に流入させることができる。
【００１２】
また、前記切刃部は、下方に向けて尖る切刃を有するとともに、カップ径方向の内側から外側に向かうに従い漸次カップ周方向の幅が狭くなり、かつそのカップ径方向の内側の端部が前記第１ヒンジ部を介して前記仕切り板に連結され、前記誘導部は、下面が平滑面とされるとともに、カップ径方向の外側から内側に向かうに従い漸次カップ周方向の幅が狭くなり、かつそのカップ径方向の外側の端部が前記第２ヒンジ部を介して前記仕切り板に連結されてもよい。
【００１３】
この場合、誘導部の下面が平滑面とされていて、誘導部に切刃が形成されていないので、誘導部がストローによって押し込まれても、第１シール材が誘導部によって破断されにくくなる。
また、切刃部が、カップ径方向の内側から外側に向かうに従い漸次カップ周方向の幅が狭くなり、かつそのカップ径方向の内側の端部が第１ヒンジ部を介して仕切り板に連結される一方、誘導部が、カップ径方向の外側から内側に向かうに従い漸次カップ周方向の幅が狭くなり、かつそのカップ径方向の外側の端部が第２ヒンジ部を介して仕切り板に連結されているので、切刃部からカップ周方向の外側に外れて誘導部に到達したストローを、切刃部上に導きやすくなり、切刃部の切刃により第１シール材を確実に破断することができる。
【００１４】
また、前記誘導部は、前記仕切り板の上面視において、前記第２ヒンジ部が連結された１つの底辺部と、残り２つの斜辺部と、により画成された三角形状を呈し、前記２つの斜辺部のうち、前記切刃部側に位置する内斜辺部の長さが、前記切刃部の反対側に位置する外斜辺部の長さより長くなってもよい。
【００１５】
この場合、誘導部を画成する２つの斜辺部のうち、内斜辺部の長さが外斜辺部の長さより長くなっているので、挿通孔に挿し込まれ第２シール材を破断したストローの先端部が、切刃部からカップ周方向の外側に外れ誘導部に到達したときに、ストローの先端部を切刃部上により一層確実に導くことができる。
【００１６】

また、前記蓋体の下端には、カップ径方向の外側に向けて突出し、かつ全周にわたって連続して延びるフランジ部が形成され、前記接続部材には、前記フランジ部を、このフランジ部の上側から支持する支持突部と、前記フランジ部の下面に液密に当接するシール突部と、がそれぞれ全周にわたって形成され、前記支持突部、及び前記シール突部にはそれぞれ、互いに異なる周方向位置に、前記仕切り板の上面と前記第２シール材との間と、外部と、を連通する間欠部が形成されてもよい。

【００１７】

この場合、支持突部、及びシール突部にそれぞれ、仕切り板の上面と第２シール材との間と、外部と、を連通する間欠部が形成されているので、収容室内の添加剤がカップ本体内に流入する際に、カップ本体内の気体を、間欠部を通して外部に流出させやすくなり、添加剤を効率よくカップ本体内に流入させることができる。

また、支持突部、及びシール突部それぞれに形成された間欠部が、互いに異なる周方向位置に配置されているので、仕切り板の上面と第２シール材との間から外部に至るまでの距離を長く確保することが可能になり、収容室内の添加剤が、カップ本体内に流入する際に間欠部を通して外部に漏出するのを抑制することができる。

また、接続部材に、蓋体のフランジ部を、このフランジ部の上側から支持する支持突部と、蓋体のフランジ部の下面に液密に当接するシール突部と、がそれぞれ全周にわたって形成されているので、蓋体を接続部材に強固に装着することもできる。

【発明の効果】

【００１８】

本発明によれば、ストローを挿通孔に挿し込む操作だけで、添加剤の添加、及びカップ本体の開封を双方ともに行うことが可能になり、優れた開封操作性を具備させることができる。

【図面の簡単な説明】

【００１９】

【図１】本発明に係る一実施形態として示した蓋付カップ容器の縦断面図である。

【図２】図１に示す蓋付カップ容器の接続部材の上面図である。

【図３】図１に示す蓋付カップ容器の接続部材の下面図である。

【発明を実施するための形態】

【００２０】

以下、図面を参照し、本発明の一実施形態に係る蓋付カップ容器１について説明する。

本実施形態の蓋付カップ容器１は、図１に示されるように、内容物が収容されるカップ本体１１と、カップ本体１１を覆う蓋体１２と、カップ本体１１と蓋体１２とを接続する接続部材３１と、を備えている。カップ本体１１は有底筒状に形成され、蓋体１２は有頂筒状に形成され、接続部材３１は筒状に形成されている。

カップ本体１１、蓋体１２、及び接続部材３１それぞれの中心軸線は、共通軸と同軸に配置されている。以下、この共通軸を容器軸Ｏといい、容器軸Ｏ方向に沿う蓋体１２の頂壁部１７側を上側、カップ本体１１の底部１１ａ側を下側といい、容器軸Ｏに沿う方向を上下方向という。また、容器軸Ｏ方向から見た平面視において、容器軸Ｏに直交する方向をカップ径方向といい、容器軸Ｏ回りに周回する方向をカップ周方向という。

【００２１】

カップ本体１１の上端には、カップ径方向の外側に向けて突出し、かつ全周にわたって連続して延びるフランジ部１１ｂが形成されている。このフランジ部１１ｂに第１シール材１３が固着されることによって、カップ本体１１の上端開口部１１ｃが封止されている。

なお、カップ本体１１の下部には、カップ径方向の内側に向けて突出する支持突起１１ｄが、カップ周方向に間隔をあけて複数形成されている。この支持突起１１ｄは、カップ本体１１内に、他のカップ本体１１が底部１１ａ側から挿入された状態で、他のカップ本体１１の底部１１ａの外周縁部を支持する。これにより、両カップ本体１１の密接を防止し、複数積み重ねられたカップ本体１１を個別に容易に取り出すことができる。

【００２２】
蓋体１２は、カップ本体１１の上方に配置され、第１シール材１３を上方から覆っている。蓋体１２の内部が添加剤の収容される収容室１５となっている。蓋体１２の下端には、カップ径方向の外側に向けて突出し、かつ全周にわたって連続して延びるフランジ部１２ａが形成されている。このフランジ部１２ａに第２シール材１６が固着されることによって、蓋体１２の下端開口部１２ｂが封止されている。
なお、蓋体１２の周壁部１４には、カップ径方向の内側に向けて突出する支持突起１２ｃが、カップ周方向に間隔をあけて複数形成されている。この支持突起１２ｃは、蓋体１２内に、他の蓋体１２が頂壁部１７側から挿入された状態で、他の蓋体１２の頂壁部１７の外周縁部１７ａを支持する。これにより、両蓋体１２の密接を防止し、複数積み重ねられた蓋体１２を個別に容易に取り出すことができる。
【００２３】
蓋体１２の頂壁部１７には、ストロー３０が挿通される挿通孔１８が形成されている。挿通孔１８は、収容室１５を介して第２シール材１６に向けて開口している。蓋体１２の頂壁部１７のうち、外周縁部１７ａは、外周縁部１７ａよりカップ径方向の内側に位置する内側部分１７ｂに対して上方に突出している。挿通孔１８は、頂壁部１７の内側部分１７ｂに形成されている。なお、挿通孔１８の上面視形状は円形状となっている。
【００２４】
接続部材３１は、第１シール材１３と第２シール材１６とを上下方向で対向させた状態で、カップ本体１１と蓋体１２とを接続している。
接続部材３１は、カップ本体１１及び蓋体１２それぞれのフランジ部１１ｂ、１２ａが挿入される外筒部３２と、外筒部３２の内側に配設され、第１シール材１３と第２シール材１６との間を上下方向に仕切る仕切り板３３と、外筒部３２と仕切り板３３とを連結する環状の連結部３４と、を備えている。
外筒部３２には、カップ本体１１のフランジ部１１ｂを、このフランジ部１１ｂの下側から支持する下側支持突部３２ａと、蓋体１２のフランジ部１２ａを、このフランジ部１２ａの上側から支持する上側支持突部（支持突部）３２ｂと、が形成されている。下側支持突部３２ａ及び上側支持突部３２ｂはそれぞれ、全周にわたって連続して延在している。
【００２５】
連結部３４は、カップ本体１１及び蓋体１２の各フランジ部１１ｂ、１２ａ同士の間に位置している。
連結部３４には、カップ本体１１のフランジ部１１ｂの上面に液密に当接する下側シール突部３５と、蓋体１２のフランジ部１２ａの下面に液密に当接する上側シール突部（シール突部）３６と、が形成されている。下側シール突部３５及び上側シール突部３６はそれぞれ、全周にわたって連続して延びる突条状に形成されている。
また、下側シール突部３５は、カップ本体１１のフランジ部１１ｂを、下方に向けて付勢して下側支持突部３２ａに圧接させ、上側シール突部３６は、蓋体１２のフランジ部１２ａを、上方に向けて付勢して上側支持突部３２ｂに圧接させている。なお、下側シール突部３５及び上側シール突部３６は互いに同じ形状で同じ大きさとなっている。
ここで、図２に示されるように、上側支持突部３２ｂ、及び上側シール突部３６にはそれぞれ、互いに異なる周方向位置に、仕切り板３３の上面と第２シール材１６との間と、外部と、を連通する第１、第２間欠部４１、４２が形成されている。
上側シール突部３６に形成された第１間欠部４１は、上側シール突部３６をカップ径方向に貫きカップ周方向に分断している。上側支持突部３２ｂに形成された第２間欠部４２は、上側支持突部３２ｂをカップ径方向に貫いているものの、外筒部３２は貫いておらず、カップ径方向の内側及び上方に向けて開口した溝形状となっている。また、第２間欠部４２は、第１間欠部４１より、後述する貫通孔２３に対してカップ周方向に離れた位置に配置されている。
ここで、上側シール突部３６は、上側支持突部３２ｂよりカップ径方向の内側に位置し

ており、第１間欠部４１は、第２間欠部４２よりカップ径方向の内側に位置している。なお、下側シール突部３５は、下側支持突部３２ａよりカップ径方向の内側に位置している。

【００２６】

仕切り板３３の外周部には、蓋体１２の頂壁部１７に形成された、ストロー３０の挿通孔１８と第２シール材１６を介して対向する貫通孔２３が形成されている。貫通孔２３は、図２及び図３に示されるように、仕切り板３３の上面視で容器軸Ｏから離れている。

貫通孔２３内には、下方に向けて尖る切刃２４ａを有する切刃部２４と、切刃部２４をカップ周方向に挟む両側に配置されるとともに、下面が平滑面とされた誘導部２５と、が配設されている。

【００２７】

切刃部２４は、カップ径方向の内側から外側に向かうに従い漸次カップ周方向の幅が狭くなり、かつそのカップ径方向の内側の端部が第１ヒンジ部２６を介して仕切り板３３に連結されている。誘導部２５は、カップ径方向の外側から内側に向かうに従い漸次カップ周方向の幅が狭くなり、かつそのカップ径方向の外側の端部が第２ヒンジ部２７を介して仕切り板３３に連結されている。

第１ヒンジ部２６は、貫通孔２３の内周縁のうち、カップ径方向の内側の端部に位置しカップ径方向の外側を向く内端縁に連結されている。第２ヒンジ部２７は、貫通孔２３の内周縁のうち、カップ径方向の外側の端部に位置しカップ径方向の内側を向く外端縁に連結されている。

【００２８】

切刃部２４は、仕切り板３３の上面視において、第１ヒンジ部２６に連結された１つの底辺部と、残り２つの斜辺部２４ｂと、により画成された三角形状を呈し、２つの斜辺部２４ｂの長さが互いに同等になっている。誘導部２５も、仕切り板３３の上面視において、切刃部２４と同様の三角形状を呈しており、２つの斜辺部２５ａ、２５ｂのうち、切刃部２４側に位置する内斜辺部２５ａの長さが、切刃部２４の反対側に位置する外斜辺部２５ｂの長さより長くなっている。なお、仕切り板３３の上面視において、誘導部２５の内斜辺部２５ａと、この内斜辺部２５ａに隣接する切刃部２４の斜辺部２４ｂと、は互いに平行となっている。

【００２９】

切刃部２４及び誘導部２５はそれぞれ板状に形成され、切刃部２４の平面積が、誘導部２５の平面積より大きくなっている。切刃部２４及び誘導部２５それぞれの上面は、仕切り板３３の上面と面一となっている。

切刃２４ａは、切刃部２４の下面における外周縁部のうち、カップ径方向の外側の端部に位置する部分に１つ形成されるとともに、２つの斜辺部２４ｂが位置する部分に、その延在方向に複数連ねられて形成されている。

【００３０】

切刃部２４におけるカップ径方向の外側の端部と、貫通孔２３の内周縁における前記外端縁と、の間には、カップ径方向の隙間が設けられている。なお、この隙間は、ストロー３０の外径より小さくなっている。

そして、貫通孔２３の内周縁において、カップ周方向で互いに隣り合う第２ヒンジ部２７同士の間に位置し、かつ切刃部２４におけるカップ径方向の外側の端部（第１ヒンジ部２６の反対側の端部）と対向する部分には、カップ径方向の内側に向けて突出する案内突起２８が形成されている。図示の例では、案内突起２８は、上方から下方に向かうに従い漸次、カップ径方向の内側に向けた突出量が大きくなっている。また、案内突起２８は、貫通孔２３の内周縁のうちの前記外端縁におけるカップ周方向の中央部に配置されている。

なお、案内突起２８の縦断面視形状は例えば半円形状にする等適宜変更してもよい。

【００３１】

仕切り板３３の下面には、第１補強突リブ３３ａ、及び第２補強突リブ３３ｂが形成さ

れている。第１、第２補強突リブ３３ａ、３３ｂは、仕切り板３３において、貫通孔２３を回避した部分に形成されている。
第１補強突リブ３３ａは、仕切り板３３の平面視において、第１ヒンジ部２６、及び切刃部２４の前記底辺部が延びる方向に沿って延在し、この延在方向に直交する直交方向に間隔をあけて複数配置されている。第１補強突リブ３３ａは、仕切り板３３の下面における前記延在方向の全長にわたって延在している。
第２補強突リブ３３ｂは、前記直交方向に延び、前記延在方向に間隔をあけて複数配置されている。第２補強突リブ３３ｂは、複数の第１補強突リブ３３ａのうち、第１ヒンジ部２６、及び切刃部２４の前記底辺部から最も離れて位置する第１補強突リブ３３ａから、これらの第１ヒンジ部２６等の反対側に向けて延在し、仕切り板３３の外周縁に至っている。
【００３２】
第１、第２補強突リブ３３ａ、３３ｂそれぞれの厚さ及び高さは互いに同等になっている。
また、切刃部２４の下面に、第３補強突リブ２４ｄが形成されている。第３補強突リブ２４ｄは、前記直交方向に延び、前記延在方向に間隔をあけて複数配置されている。
第３補強突リブ２４ｄは、第１、第２補強突リブ３３ａ、３３ｂと比べて厚さが厚く、かつ高さが低くなっている。
【００３３】
ここで、挿通孔１８は、図１及び図２に示されるように、蓋体１２の頂壁部１７における外周部に形成されていて、頂壁部１７における挿通孔１８の開口周縁部のうち、カップ径方向の外側に位置する部分に、頂壁部１７の上面視でカップ径方向の内側に向けて開口する形状を呈する規制壁部２９が下方に向けて突設されている。なお、規制壁部２９の前記上面視形状は、例えばＣ字状、Ｕ字状、若しくはコ字状にする等適宜変更してもよい。
規制壁部２９は、挿通孔１８に挿し込まれたストロー３０の先端部が摺接することで、ストロー３０の先端部が切刃部２４に対してカップ径方向の外側に外れるのを規制している。図示の例では、規制壁部２９は、頂壁部１７の上面視で、挿通孔１８の開口周縁部の半周程度となっているが、これに限定されない。
【００３４】
以上説明したように、本実施形態による蓋付カップ容器１によれば、ストロー３０を挿通孔１８から挿し込むと、ストロー３０の先端部によりまず第２シール材１６が破断され、次に、ストロー３０の先端部が切刃部２４を下方に向けて押し込むことで、切刃部２４が第１ヒンジ部２６回りに下方に向けて回動し、切刃２４ａが第１シール材１３を破断する。これにより、収容室１５内とカップ本体１１内とが連通し、収容室１５内の添加剤がカップ本体１１内に流入する。
このように、ストロー３０を挿通孔１８に挿し込む操作だけで、カップ本体１１の開封、及び添加剤の添加を双方ともに行うことが可能になり、優れた開封操作性を具備させることができる。
【００３５】
さらに、以上の開封の過程において、挿通孔１８に挿し込まれ第２シール材１６を破断したストロー３０の先端部が、切刃部２４からカップ周方向の外側に外れ誘導部２５に到達しても、誘導部２５が第２ヒンジ部２７回りに下方に向けて回動することで、ストロー３０の先端部を切刃部２４上に導くことが可能になり、切刃部２４の切刃２４ａにより第１シール材１３を確実に破断することができる。
また、誘導部２５の下面が平滑面とされていて、誘導部２５に切刃が形成されていないので、誘導部２５がストロー３０によって押し込まれても、第１シール材１３が誘導部２５によって破断されにくくなる。
さらに、切刃部２４が、カップ径方向の内側から外側に向かうに従い漸次カップ周方向の幅が狭くなり、かつそのカップ径方向の内側の端部が第１ヒンジ部２６を介して仕切り板３３に連結される一方、誘導部２５が、カップ径方向の外側から内側に向かうに従い漸

次カップ周方向の幅が狭くなり、かつそのカップ径方向の外側の端部が第２ヒンジ部２７を介して仕切り板３３に連結されているので、切刃部２４からカップ周方向の外側に外れて誘導部２５に到達したストロー３０を、切刃部２４上に導きやすくなり、切刃部２４の切刃２４ａにより第１シール材１３を確実に破断することができる。

【００３６】

また、挿通孔１８に挿し込まれ第２シール材１６を破断したストロー３０の先端部が、切刃部２４からカップ径方向の外側に外れても、案内突起２８上を摺動させることにより、ストロー３０の先端部を切刃部２４上に導くことが可能になり、切刃部２４の切刃２４ａにより第１シール材１３を確実に破断することができる。

【００３７】

また、挿通孔１８に挿し込まれたストロー３０の先端部が、切刃部２４に対してカップ径方向の外側に外れようとしても、規制壁部２９に摺接することにより、ストロー３０の先端部を切刃部２４上に導くことが可能になり、切刃部２４の切刃２４ａにより第１シール材１３を確実に破断することができる。

また、規制壁部２９が、頂壁部１７の上面視でカップ径方向の内側に向けて開口する形状を呈しているので、収容室１５内の添加剤がカップ本体１１内に流入する際に、カップ本体１１内の気体を、挿通孔１８を通して外部に流出させやすくなり、添加剤をカップ本体１１内に円滑に流入させることができる。

【００３８】

また、誘導部２５を画成する２つの斜辺部２５ａ、２５ｂのうち、内斜辺部２５ａの長さが外斜辺部２５ｂの長さより長くなっているので、挿通孔１８に挿し込まれ第２シール材１６を破断したストロー３０の先端部が、切刃部２４からカップ周方向の外側に外れ誘導部２５に到達したときに、ストロー３０の先端部を切刃部２４上により一層確実に導くことができる。

【００３９】

また、上側支持突部３２ｂ、及び上側シール突部３６にそれぞれ、仕切り板３３の上面と第２シール材１６との間と、外部と、を連通する第１、第２間欠部４１、４２が形成されているので、収容室１５内の添加剤がカップ本体１１内に流入する際に、カップ本体１１内の気体を、第１、第２間欠部４１、４２を通して外部に流出させやすくなり、添加剤を効率よくカップ本体１１内に流入させることができる。

また、上側支持突部３２ｂ、及び上側シール突部３６それぞれに形成された第１、第２間欠部４１、４２が、互いに異なる周方向位置に配置されているので、仕切り板３３の上面と第２シール材１６との間から外部に至るまでの距離を長く確保することが可能になり、収容室１５内の添加剤が、カップ本体１１内に流入する際に第１、第２間欠部４１、４２を通して外部に漏出するのを抑制することができる。

また、接続部材３１に、蓋体１２のフランジ部１２ａを、このフランジ部１２ａの上側から支持する上側支持突部３２ｂと、蓋体１２のフランジ部１２ａの下面に液密に当接する上側シール突部３６と、がそれぞれ全周にわたって形成されているので、蓋体１２を接続部材３１に強固に装着することもできる。

さらに、カップ径方向の内側に位置する第１間欠部４１が、カップ径方向の外側に位置する第２間欠部４２より、貫通孔２３に対してカップ周方向に近づいて配置されているので、カップ本体１１内の気体を、速やかに外部に向かわせることが可能になり、添加剤のカップ本体１１内への流入をより一層効率よく行うことができる。

【００４０】

本発明は上記した実施の形態に限定されるものではなく、その趣旨を逸脱しない範囲で適宜変更可能である。

【００４１】

例えば前記実施形態では、切刃部２４におけるカップ径方向の外側の端部と、貫通孔２３の内周縁における前記外端縁と、の間に、カップ径方向の隙間を設けたが、この隙間を設けず、貫通孔２３の内周縁における前記外端縁に案内突起２８を形成しなくてもよい。

また、蓋体１２に規制壁部２９を設けなくてもよく、誘導部２５を画成する２つの斜辺部２５ａ、２５ｂの長さを互いに同等にしてもよい。
また、仕切り板３３の上面視において、切刃部２４及び誘導部２５を互いに同形同大に形成してもよい。
また、第１～第３補強突リブ３３ａ、３３ｂ、２４ｄ、下側シール突部３５及び上側シール突部３６は形成しなくてもよい。
また、下側シール突部３５及び上側シール突部３６を互いに異なる形状で異なる大きさとしてもよい。
また、切刃部２４に切刃２４ａを設けなくてもよく、誘導部２５の下面は平滑面でなくてもよい。
また、切刃部２４及び誘導部２５の上面視形状は、前記実施形態に限らず適宜変更してもよい。
また、第１、第２ヒンジ部２６、２７の双方を、貫通孔２３の内周縁のうち、例えば前記外端縁及び前記内端縁のうちのいずれか一方にのみ連結してもよい。

【００４２】

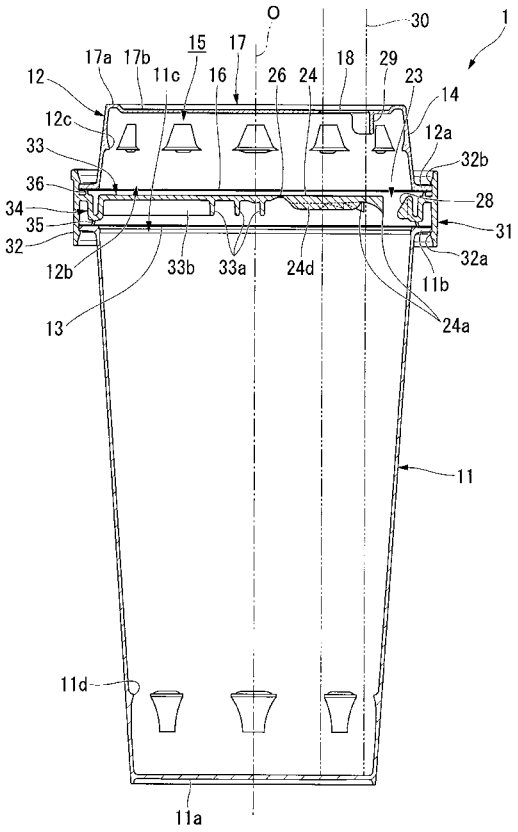
その他、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で、上記した実施の形態における構成要素を周知の構成要素に置き換えることは適宜可能であり、また、上記した変形例を適宜組み合わせてもよい。

【符号の説明】

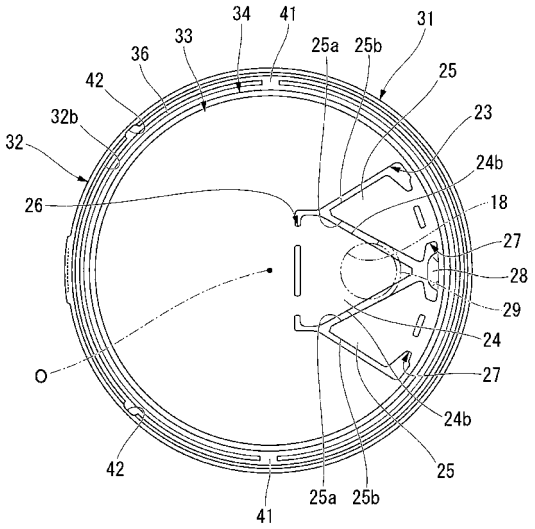
【００４３】

１　蓋付カップ容器
１１　カップ本体
１１ｃ　上端開口部
１２　蓋体
１２ａ　フランジ部
１２ｂ　下端開口部
１３　第１シール材
１５　収容室
１６　第２シール材
１７　頂壁部
１８　挿通孔
２３　貫通孔
２４　切刃部
２４ａ　切刃
２５　誘導部
２５ａ　内斜辺部
２５ｂ　外斜辺部
２６　第１ヒンジ部
２７　第２ヒンジ部
２８　案内突起
２９　規制壁部
３０　ストロー
３１　接続部材
３２ｂ　上側支持突部（支持突部）
３３　仕切り板
３６　上側シール突部（シール突部）
４１　第１間欠部
４２　第２間欠部

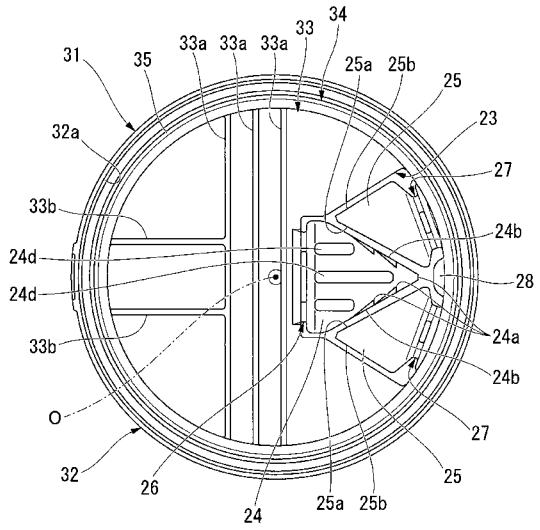
【図１】


O
30
1
17a
17b
15
17
12
11c
16
26
24
18
29
23
14
12c
12a
33
32b
36
28
34
35
31
32
32a
12b
33b
33a
24d
11b
13
24a
11
11d
11a

【図２】


34
41
31
33
25a
25b
36
25
42
32b
23
32
24b
26
18
27
28
29
24
O
27
24b
42
25
25a
25b
41

【図３】


34
33
33a
33a
33a
31
35
25a
25b
25
32a
23
27
33b
24b
24d
28
24d
24a
33b
24b
O
27
32
26
25
24
25a
25b

フロントページの続き

(72)発明者　山口　菜穂
東京都中野区中野四丁目１０番２号　キリン株式会社内
(72)発明者　遠藤　徳雄
東京都中野区中野四丁目１０番２号　キリン株式会社内
(72)発明者　鈴木　武蔵
東京都中野区中野四丁目１０番２号　キリン株式会社内
(72)発明者　伊東　千春
東京都中野区中野四丁目１０番２号　キリン株式会社内
(72)発明者　早川　茂
東京都江東区大島３丁目２番６号　株式会社吉野工業所内
(72)発明者　浅川　紀幸
東京都江東区大島３丁目２番６号　株式会社吉野工業所内
(72)発明者　石原　智幸
東京都江東区大島３丁目２番６号　株式会社吉野工業所内
Ｆターム(参考) 3E084 AA02　AA12　AB01　BA01　CA01　FA03　GB11